

九州・沖縄地区ニュース

//////////////////// No.110 2012.3 //////////////////////

日本学術会議 九州・沖縄地区 代表幹事 吾郷眞一

九州・沖縄地区の会員、連携会員の皆様におかれては、平素より地区の学術活動の中心となってお活躍いただいておりますことを、お礼申し上げます。九州・沖縄地区ニュース110号をお届けします。

昨年のこのニュースの冒頭で九州で起きた災害に触れた直後、東日本が大変な災害に見舞われました。そのショックからまだ抜け切れていませんが、日本学術会議も震災直後から科学者集団としての責任を果たすべく各種活動を展開してまいりました。九州・沖縄地区の会員・連携会員の皆様も地理的には離れてはいましたが、いや離れているからこそできることをいろいろとやってこられてきたと思います。一年や二年では解決できない問題ですが、ぜひ力を合わせて立ち向かいたいと思います。

さて、九州・沖縄地区会議では、平成23年度の活動として、平成23年11月と平成24年1月に大分大学と宮崎大学の協力を得て、科学者懇談会と講演会を開催いたしました。いずれの懇談会・講演会の際にも地区会議メンバーが多数参加していただきました。これからは、さらに連携会員の皆様の参加も働き掛け多い場としていけたらと思います。

今後とも九州・沖縄地区会議においては、地域における研究者の交流の場の提供し、市民に向けた学術情報の発信に今まで以上に努めて参る所存です。

【科学者懇談会の開催】

平成23年度、九州・沖縄地区会議では、平成23年11月に大分市、平成24年1月に宮崎市にて科学者懇談会を実施いたしました。

例年、九州・沖縄地区会議が主催する科学者懇談会においては、その時々々の学術を取り巻く環境が変わる中、日本学術会議の会員と、各地域にて研究活動を行っている研究者との間で意見が交わされております。

今年度は、冒頭、春日副会長から日本学術会議の活動概要について説明があった後、東日本大震災被災地域の復興等に向け、今後学術に何が求められるのか、また、何ができるのかなど、話題提供があり、我が国の学術を取り巻く状況や分析なども交え、意見交換がなされ、活発な議論が行われました。



第1回 科学者懇談会

日 時：平成23年11月25日（金）12:30～13:30

場 所：大分全日空ホテル オアシスタワー（住所：大分市高砂町2-48）

出席者：

日本学術会議	副会長	春日 文子
	九州・沖縄地区会議代表幹事	吾郷 眞一
	九州・沖縄地区会議会員（第一部会員）	箱田 裕司
	九州・沖縄地区会議会員（第二部会員）	古谷野 潔
	九州・沖縄地区会議会員（第三部会員）	小松 利光
大分大学	学長（日本学術会議連携会員）	北野 正剛
	理事（総務担当）	嘉目 克彦
	理事（医療・研究担当）・副学長	藤岡 利生
	理事（国際・社会連携担当）・副学長	田中 充
	理事（財務・環境担当）	岩切 平治
	工学部長	井上 正文

大分工業高等専門学校	校長	大城 桂作
日本文理大学	学長	平居 孝之
別府大学	食物栄養科学部長	江崎 一子
別府大学	国際経営学部長	佐藤 哲哉
立命館アジア太平洋大学	学長	是永 駿

第2回 科学者懇談会

日 時：平成24年1月27日（金）12:00～13:30

場 所：ニューウェルシティ宮崎（住所：宮崎市宮崎駅東1-2-8）

出席者：

日本学術会議	副会長	春日 文子
	九州・沖縄地区会議代表幹事	吾郷 眞一
	第一部会員	箱田 裕司
	第一部会員	河野 正憲
	第二部会員	古谷野 潔
宮崎大学	学長	菅沼 龍夫
	理事（研究・企画担当）・副学長	原田 宏
	理事（教育・学生担当）・副学長	岩本 俊孝
	理事（医学部附属病院長）	池ノ上 克
	理事（事務局長）	松ヶ迫 和峰
	副学長（目標・評価担当）	菊地 正憲
	副学長（産学・地域連携担当）	堀井 洋一郎
	教育文化学部長	兒玉 修
	医学部長	迫田 隅男
農学部長（代理）	香川 浩彦	
九州保健福祉大学	学長	和田 明彦



【学術講演会の開催】

九州・沖縄地区会議では、九州各県において、地元大学等の協力を得て、科学者懇談会・学術講演会を開催しています。平成23年度においては、平成23年11月に大分市、平成24年1月に宮崎市にて実施いたしました。

「生命科学から見た健康長寿への道」 大分大学

日 時：平成23年11月25日（金）14:00～17:00

場 所：大分全日空ホテル オアシスタワー（住所：大分市高砂町2-48）

平成23年11月25日（金）、大分市において、大分大学を含む教育研究機関等の共催で、日本学術会議春日文子副会長及び大分大学北野正剛学長のご挨拶の後、大分大学医学部の山岡吉生 教授、大分大学医学部長の野口隆之 教授、宮城大学理事・副学長（震災復興担当）であり大阪市立大学医学部の井上正康 教授、日本対がん協会会長であり国立がんセンター名誉総長の垣添忠生 会長を講師にお迎えし、「生命科学から見た健康長寿への道」をテーマにした学術講演会を開催し、一般市民や教職員など約100名の参加を得ました。



はじめに、山岡吉生 先生からは「ピロリ菌感染と健康長寿」という演題でご講演いただきました。

健康長寿を考える場合の癌予防、特に山岡先生が長年研究を続けている胃癌に関して、ピロリ菌と胃癌との関連性について、また、ピロリ菌を考慮した胃癌検診システムの確立し、胃癌撲滅に対する取り組みなどについて、日頃の研究成果をふまえ、分かりやすく説明いただきました。





引き続き、野口隆之 先生から「東九州メディカルバレー産官学連携によるヘルスイノベーションの試み」という演題でご講演いただきました。

大分県内での産官学連携による血液・血管関連の医療機器産業のさらなる集積を図ることを目的とした「臨床医工学寄付講座」の設置にまつわる経緯や今後の展開などについてのご講演をいただきました。

次に、井上正康 先生から「活性酸素と生物の生存戦略:生物進化から生老病死を診る」という演題でご講演いただきました。

進化生物学的観点からの生老病死の本質を身近な例を交えながら、お金のかからない『健康長寿の処方箋』について、ユーモアを交えながら、ご紹介いただきました。



最後に、垣添忠生 先生から「健康長寿を目指したがん征圧への取り組み」という演題でご講演いただきました。

がんにならないための予防や現在の診療、また、がんの多様性の実例などをふまえ、がんの征圧への取り組みの実情について、大変貴重なご講演をいただきました。

講演会の感想(アンケート調査から抜粋)

20代女性

日本は長寿の国ですが、健康長寿が今後は重要になっていくことを感じました。

40代男性

専門的知識がない者にもわかりやすくとても良かった。

30代女性

垣添先生の講演、特に「妻を看取る」部分、緩和ケアの部分をもっと話を聞いてみたいと思った。研究をしていくことの大切さと、研究以外の分野（患者からの目線）にも目を向けている所に感銘を受けた。

20代女性

ガンについてそこまで興味はなかったが、もっとみじかな病気とわかった。また、とてもおもしろい講演会だった。ダイエットやコレステロールについても話があり、おもしろかった。また生活習慣について、もう1度見直そうと思った。

「宮崎の資源を活かした研究の展開 —宮崎から世界への発信—」 宮崎大学

日 時：平成24年1月27日（金）14:00～16:00

場 所：ニューウェルシティ宮崎（住所：宮崎市宮崎駅東1-2-8）

平成24年1月27日（金）、宮崎市において、宮崎大学、九州保健福祉大学及び高等教育コンソーシアム宮崎との共催で、「宮崎の資源を活かした研究の展開—宮崎から世界への発信—」と題した講演会を開催いたしました。

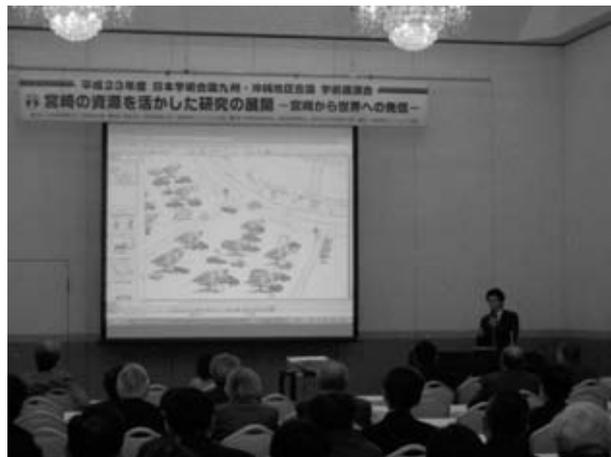
本講演会は、南九州に位置し、温暖で豊かな天然資源を持つ宮崎県において、太陽光や海洋資源を活用した研究によるエネルギーや医療などの社会的課題への取り組みについて紹介し、地域社会の学術の振興に寄与することを目的として開催しました。

講演会は、一般市民や教職員、マスコミ関係者など約90名の参加者を集め、日本学術会議春日女子副会長及び宮崎大学菅沼龍夫学長のご挨拶の後、宮崎大学工学部の西岡賢祐准教授、九州保健福祉大学の山本隆一副学長を講師に迎え、盛況のうちに終了しました。



はじめに、西岡賢祐 先生からは「太陽光発電、日本一を目指して～宮崎大学の取り組み～」という演題でご講演いただきました。

宮崎県も太陽光発電の重要性を認識し、太陽電池産業振興のための講演会等の普及活動を行っている。宮崎大学にて発足した「宮崎大学太陽光発電プロジェクト」にて取り組んでいる太陽光発電に関する研究開発、教育、産官学連携事業について、また、その研究の一端について若々しく元気なご講演をいただきました。



引き続き、山本隆一 先生からは「宮崎県の水産物資源の中に虚血性心疾患予防物質を探す」という演題でご講演いただきました。

水産物などの食物およびそれに含まれる天然成分より生理活性物質を新たに見出す研究の一部の紹介、また、それにとまなう宮崎県内の水産業・食品加工業・医薬業の活性化への寄与などについて、わかりやすいご講演をいただきました。



講演会の感想(アンケート調査から抜粋)

20代男性

研究者ではないため、具体的な研究内容のすべては理解できないが今後の太陽光発電システム及び海産物資源の可能性は感じた。

40代男性

大学で行われている学術研究であるが、実用化の見込みが期待され、宮崎県の地域振興につながる可能性が見出した。

40代男性

宮崎の環境を利用した研究であるとともに、身近に感じることのできるテーマであり、理解し易く講演していただけたと思います。研究の進展が期待されると思います。

60代男性

講演内容・方法いずれも適切・優れていた。市民レベルでも十分理解できる講演でした。



○平成23年度事業報告○

1. 地区会議

1)平成23年9月1日(書面回議)

- (1)23年度日本学術会議九州・沖縄地区会議事業計画
(大分大学・宮崎大学開催)について

2. 科学者懇談会の開催

1)平成23年11月25日(金) 大分大学(大分市)

春日 文子 日本学術会議副会長
北野 正剛 大分大学長 他

2)平成24年1月27日(金) 宮崎大学(宮崎市)

春日 文子 日本学術会議副会長
菅沼 龍夫 宮崎大学長 他

3. 学術講演会等の開催

1)平成23年11月25日(金) 大分大学(大分市)

「生命科学から見た健康長寿への道」

◇演題・講演者

- ①「ピロリ菌感染と健康長寿」
山岡 吉生 (大分大学医学部 教授)
- ②「東九州メディカルバレー産官学連携による
ヘルスイノベーションの試み」
野口 隆之 (大分大学医学部長)
- ③「活性酸素と生物の生存戦略:生物進化から生老病死を診る」
井上 正康 (宮城大学 理事・副学長(震災復興担当)、
大阪市立大学医学部教授)
- ④「健康長寿を目指したがん征圧への取り組み」
垣添 忠生 (日本対がん協会会長 国立がんセンター名誉総長)

2)平成24年1月27日(金) 宮崎大学(宮崎市)

「宮崎の資源を活かした研究の展開

—宮崎から世界への発信—」

◇演題・講演者

- ①「太陽光発電、日本一を目指して～宮崎大学の取り組み～」
西岡 賢祐 (宮崎大学工学部 准教授)
- ②「宮崎県の高産物資源の中に虚血性心疾患予防物質を探す」
山本 隆一 (九州保健福祉大学薬学部 教授)

4. 地区ニュース(No.110号)発行(平成24年3月)

○平成24年度事業計画○

1. 地区会議

1)平成24年6月 九州大学事務局(未定)

- (1)24年度事業計画について
(2)科学者懇談会・学術講演会の開催について
(3)地区ニュースの発行について

2)平成25年3月 九州大学事務局(未定)

- (1)24年度事業実施報告について
(2)地区ニュースの発行について

2. 科学者懇談会・学術講演会の開催

1)開催地・開催場所:未定

3. 地区ニュース

1)No.111号発行(25年3月)

日本学術会議 九州・沖縄地区会議

吾郷 眞一 (第一部所属 九州大学 副学長・大学院法学研究院教授)

伊藤 早苗 (第三部所属 九州大学 応用力学研究所主幹教授)

尾家 祐二 (第三部所属 九州工業大学 理事・副学長)

河野 正憲 (第一部所属 福岡大学 法科大学院教授)

木下 尚子 (第一部所属 熊本大学 文学部教授)

小松 利光 (第三部所属 九州大学 大学院工学研究院教授)

古谷野 潔 (第二部所属 九州大学 大学院歯学研究院教授)

高原 淳 (第三部所属 九州大学 先端物質化学研究所教授)

箱田 裕司 (第一部所属 九州大学 大学院人間環境学研究院教授)

前原 喜彦 (第二部所属 九州大学 大学院医学研究院消化器・総合外科教授)

満屋 裕明 (第二部所属 熊本大学 医学部教授)

安浦 寛人 (第三部所属 九州大学 理事・副学長)

※五十音順

発行 2012年3月

編集 日本学術会議 九州・沖縄地区会議

代表 吾郷 眞一

〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1

(九州大学学術研究推進部学術研究推進課内)

電話 092-642-2131 (ダイヤルイン)

FAX 092-642-4317